

東日本大震災から一年を経て

鈴木 玉江

福島県 いわき市学童保育連絡協議会 事務局長

いつも見慣れた校庭を子どもたちとゆっくり散歩していると、目の前に花びらがヒラヒラと舞い降りてきました。足をとめて見わたすと、いつの間にか、あちこちに白い花・青い花・桃色の花が大小入りみだれ、色とりどりの花が咲いておりました。春の天使の贈りものと思うと、とても楽しくなりました。

昨年度は、地震による津波、火災、さらには原発事故により、四つの児童クラブが避難を余儀なくされ、一時的に開設できなくなった児童クラブもあり、自然をゆっくり観察する間もなく

◆久ノ浜児童クラブ（小学校余裕教室使用）のあった地域は、第一原発より三〇キロ圏に一部がかかっており、避難指示がありました。

また、余震により津波が来る恐れがあるため、住民は、いわき市内、数か所の仮設住宅に避難しています。小学校は別の小学校を間借りしていたため、児童クラブもその近くの大学の建物の一部を借り、五月九日より開設していました。

二〇一一年一〇月一日より、小学校は元の場所に戻り、それと同時に、児童クラブも戻りました。

◆四倉児童クラブ（幼稚園余裕教室で開設）では、施設のあった幼稚園で六月に入り、放射線積算測定を開始したところ、数日間の調査で、年間積算線量を大幅に超える値が検出されました。急遽、六月二四日より、老人福祉センターを借りての開設となりました（地域の小学校の中には中学校が移転して

時が過ぎていきました。現在は、皆様よりいただいた義援金のおかげもあり、すべての児童クラブが開設できております。それぞれの児童クラブの現状をご報告します。

◆江名児童クラブ（保育園余裕教室使用）は、それまで施設のあった保育園が震災で被害を受け、使用できなくなり、開設場所が見つかるまで、一時的に小学校の廊下を借り、開設していました。

被害にあった別の小学校が、その小学校の校舎を間借りするために移転し

きているため、借りることができない）。夏休みは場所を公民館に移動して開設と、困難を極めました。

二〇一二年度より、中学校が元の場所に戻り、余裕教室ができたこともあり、小学校の中で開設することができるようになりました。

◆永崎児童クラブ（小学校敷地内専用施設）は津波で壊滅的な被害を受け、保護者の方が所有している別荘を一時にお借りして開設していましたが、その後、公民館に移りました。

現在は、修繕を行い、元の施設に戻り、開設をしております。

いわき市の教育委員会は、「外での活動時間を延ばしつつ、今年度は、プール実施」といった方向で二〇一二年度をスタートさせました。保護者からは、「外で遊ばせることが心配」といった声もあり、子どもたちが混乱しかねない状況が生まれています。

できたこともあり、あまり迷惑をかけるわけにもいかないと、他で開設できる場所を探しはじめ、その時、ご協力いただいた不動産会社の社長さんの自宅の六畳の居間を、昼間だけお借りし、開設しております。

二〇一二年度より、移転してきていた小学校が元の場所に戻ったこともあり、余裕教室が生まれ、そこで開設できるようになりました。

◆豊間児童クラブ（小学校敷地内専用施設）は、地域の九〇％が津波による被害を受け、ほぼ全町民が仮設住宅に移転しました。地域の小学校も、別の小学校に間借りしていましたが、児童クラブは開設場所がなく、ようやく夏休みになって、公民館で再開することができました。

二〇一二年度より、移転していた小学校が元の場所に戻ったこともあり、児童クラブも修繕を行い、元の施設で開設できるようになりました。

また、児童クラブでは、一日のうち時間を決めて（三〇分〜一時間だけ）外遊びを実行しているところ、時間を決めずに外遊びを実施しているところと、対応はさまざまです。

二〇一一年度、福島県外に転校した小学生の数は一万四〇八人と多く、現在も、転校する子どもが後を絶ちません。これに伴い、児童クラブの登録児童数も不安定で、運営にも影響が出ています。また、場所的にはおちつきがきましたが、精神的には、おちつきをまだ取り戻せていないのが現状です。

* * *

さまざまな問題で、未だ、混乱の日々が続いています。昨年、石川県で開催された全国学童保育研究会での皆様のあたたかいお言葉の思いがけなく、がんばっていきなさいと思っておりますので、今年度もよろしくお願いたします。